

社会教育推進だより

No. 97

令和3年度第2回日南町社会教育委員会議にて(その2)

11月号に引き続き、社会教育委員会議で出されましたご意見を掲載いたします。

◆今の子どもの中には「一生懸命やっている姿が恥ずかしい」という雰囲気がある。大人は「子どもが、子どもが…」というけれど、親の責任も考えるべきだ。親が変わらないと子どもも変わらない。親の姿が子どもに反映していると感じる。

◆「親は忙しい」とよく言われるが、子どもにとっては親が関わることが一番大切。祖父母よりも親がもっと子どもに関わってほしい。

◆郷土の偉人のことを子どもたちがどれだけ知っているのだろうか。町外に出た時に、郷土のことを紹介できるように教えてやってほしい。

◆わが子のことだが、日南町の思い出をどれだけでも持っているだろうか。もっとたくさん日南町の思い出を作ってやればよかった。コロナで開催できていないが、通学合宿は地域との関わりができる、とてもいい機会だった。

◆「日南学」とコミュニティ・スクールをつなげたい。バス停での見守りを通じて、子どもの姿を見ている。中学生が小さな子の手を引いて通学する姿など、とてもいい。3、4年前に地域で巫女舞を復活させた。そこで行儀も習う。都会に出ても日南町の思い出があるのはいいいことだ。

◆東京に出た時に(胸を張って)「日南町」と言えるものが自分にはなかった。だから、今の子どもたちには、「日南町」を植え付けてやりたい。今、全国的に田舎志向になってきているのは、田舎の良さを田舎出身の人たちが周りに伝えていったからこそ。外に出た時に日南の良さを伝えられるように。

◆作野先生が言われた「世界に目を向けながら、現場は日南」というのは、違和感がある。世界に目を向ける前に、できることをする。できることをいっすべき。学校が学力の保障をきちんとすれば、保護者も文句を言わないのでは。

◆これからの日南町の子どもを、一言でもモノが言える子どもに育てたい。
◆自信をもって子どもに伝えること。
◆遊ぶことで、いろいろな疑問がうまれる。わからないことは、大人も一緒に調べたり学んだりすればいい。大人と関わることで「日南町っていいよね」という体験的感情が生まれる。それによって「帰ってきたい」とか帰ってこなくても「日南町に貢献をしたい」と思う子に育てたい。

町民のみなさん、ご意見をお読みになっていかげだっただでしょうか。何か考えのきつかけになれば幸いです。
定刻を過ぎる活発な意見交換となりました。ご意見を一つでも社会教育や学校教育に役立てていくことが、これからの仕事となります。

地域コーディネーターだより

今年も残り1か月となりました。小中学生は、2学期も多くの体験学習で町内へ出かけたようです。良い思い出も沢山出来たことでしょう。小6年・中3年生は学校生活もあと約4か月です。一日一日を楽しんで学校生活を送ってください。

小学校では10月から「アフタースクール、放課後遊び見守り」の取り組みを行っておりCSサポーターの方が児童と共に時間を過ごしています。また朝の読み聞かせを月1回行っています。読み聞かせの時間を、児童も、CSサポーターの方もとても楽しみにしておられます。

このように、町民の方が来校して子どもたちと

一緒に過ごすことは良い影響を与えるものと思っています。来て頂いたCSサポーターの方の感想に「ちゃんと説明を聞いてくれる」「挨拶も気持ちよくしてくれるようになった」などが聞かれ、子どもたちが少しずつ変わってきていることを実感されているようです。

町民の皆様どうでしょうか。子どもたちと一緒に遊んでみませんか。地域の方とのふれあいを子どもたちも待っています。日南町の子どもたちは、こうした体験を通してたくましく成長するものと感じるようになりました。

クイズ 気象編

冬の季節到来です。冬将軍とも言われて日南町でも大雪になります。冬支度はお済みでしょうか。さて、テレビなどで「冬型の気圧配置になります」とよく言われますがこの冬型の代表的な気圧配置を何と言うのでしょうか。

- ①南高北低 ②東高西低 ③西高東低



※前号の答え ①常緑樹 ②落葉樹 ③街路樹 (①、③も種類によっては紅葉します。)
連絡先 教育委員会 82-1118 コーディネーター荒金 敏文 携帯 080-5232-7712